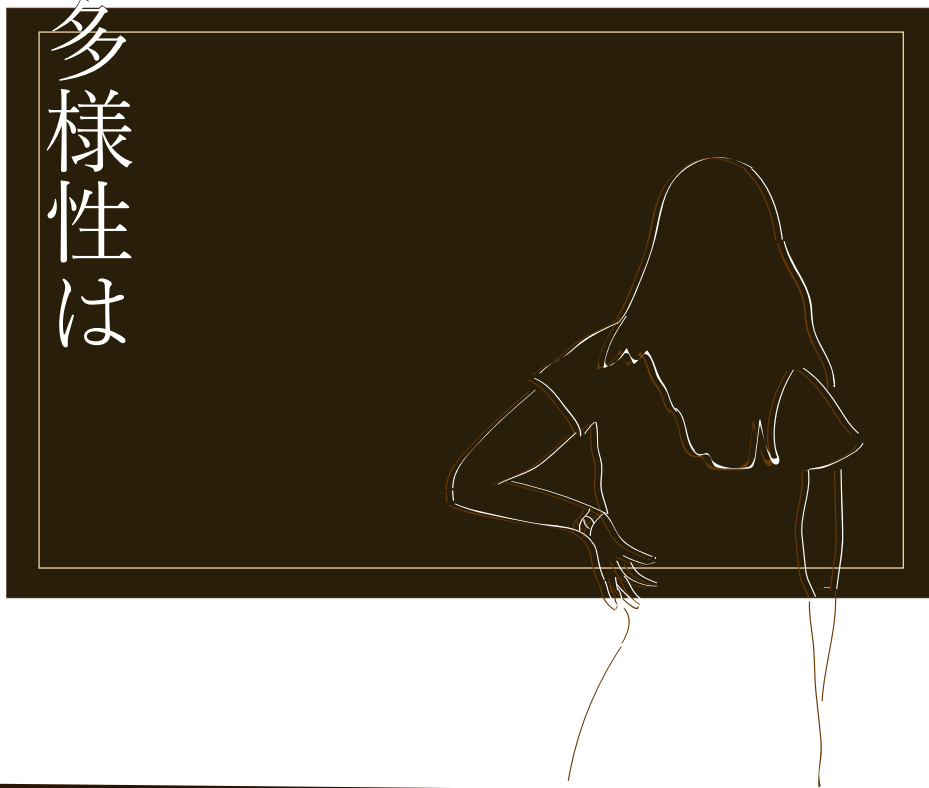


文化多様性は 何をめざすのか ミュージアムと考える、 新時代



「文化多様性 cultural diversity」ということは、いま、わたしたちが目指すべき社会を思い描くうえで重要なキーワードとなっている。しかしながらこのことばを、耳なじみの良いキャッチフレーズとして唱えるだけでなく、具体的に実践し、積極的な価値として掘り下げようとすることには、少なからぬ困難が伴うだろう。とりわけ、他の文化の違いが必然的にもたらす大小の摩擦や、普遍的・本質的だと信じられてきた価値の不安定化などは、個人や共同体のあり方にも影響を与えるような、深刻な困難となりかねない。

そのような社会のなかにあつて、近年注目を集めつつあるのが、「ミュージアム」である。確かに、近代のミュージアムがある種の権力的なまなざしとともにスタートし、ときには他者の文化を傷つけることさえあった、ということも否定できない。けれども、いろいろな文物が集まり、さまざまな声が入り混じる今日のミュージアムは、文化多様性時代を代表する知のフォーマットとなる可能性を、大いに秘めているのではないか。すなわちミュージアムは、多数の文化が交流する場、複数の価値が並び立つ場、そして何よりそうした多数性・複数性そのものの意味を鍛え直す場となることができるのではないか。

本シンポジウムでは、文化多様性時代のミュージアムが、自他の文化的共存のために、地域や共同体の未来のために、わたしたちのよりよい生活のためにできることを探り、新時代のためにミュージアムを展望してみたい。

聴講無料！

2019年 6月9日(日) 13:00 ~ 17:00

北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟 W103 教室

登壇予定者

吉田 憲司氏 × 鷺田 めるろ氏

(国立民族学博物館館長)

(あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター)

小田 博志氏 (北海道大学文学研究院文化多様性論分野教授〔文化人類学〕)

谷古宇 尚氏 (北海道大学文学研究院文化多様性論分野教授〔芸術学〕)

佐々木 亨氏 (北海道大学文学研究院文化多様性論分野教授〔博物館学〕)

司会 鈴木幸人氏 (北海道大学文学研究院文化多様性論分野准教授)

学藝
リカプロ

Museum Curators' Recurrent
Education Program: Planning,
Management, Evaluation

主催：北海道大学学芸員リカレント教育プログラム、北海道大学大学院文学研究院文化多様性論講座
助成：2019年度文化庁 大学における文化芸術推進事業「ミュージアム学芸員の企画展制作〈立案・運営・評価〉スキル養成深化プログラム」
お問い合わせ：〒060-0810 札幌市北区北10条西7丁目 北海道大学文学研究院内 学芸リカプロ事務局
TEL 011-706-4017 / E-mail recurrent_hokudai@let.hokudai.ac.jp

シンポジウム

文化多様性は
何をめざすのか
ミュージアムと考える、
新時代

吉田 憲司

国立民族学博物館 館長

国立民族学博物館の第6代館長。1955年京都市生まれ。京都大学文学部卒業、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。学術博士。大阪大学助手、国立民族学博物館教授などを経て、現職。『文化の「発見」』でサントリー学芸賞など受賞。その他の著書に『宗教の始原を求めて』『仮面の森』など。



鷺田 めるろ

あいちトリエンナーレ 2019 キュレーター

1973年京都市生まれ、金沢市在住。東京大学大学院修士（文学）修了。1999年から2018年まで金沢21世紀美術館キュレーター。第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター（2017年）。あいちトリエンナーレ2019キュレーター。瀬戸内国際芸術祭2019アーティスト選考アドバイザーボード委員。的|芸術中心(北京)学術委員。金沢美術工芸大学客員教授。



佐々木 亨

Museum Studies

博物館学

北海道大学文学研究院文化多様性論分野教授。北大学芸員リカレント教育プログラム代表。旅行代理店での営業職、民間シンクタンク研究員、博物館学芸員（北海道立北方民族博物館）を経て、2000年より出身大学である現勤務先で、博物館学・文化人類学を教える。ミュージアムをフィールドとし、そこで実施する評価のあり方を研究。来館者が得る便益だけでなく、来館しない地域住民や地域そのものに、ミュージアムはどんな価値を提供できるのかを、評価を通して顕在化させたい。



谷古宇 尚

Aesthetics and History of Art

芸術学

北海道大学大学院文学研究院文化多様性論分野教授。短期間ながら世田谷美術館で学芸員を務める。専門はイタリア美術、ヨーロッパ中世美術。フランススコ会など、宣教活動を展開する修道会の美術に特に関心がある。20年近く前から、ロシア極東やサハリンでも調査を行っており、先住民や移住者の住む土地を描いた風景画に注目している。1960年代半ばからソ連崩壊まで活動した「シコタン・グループ」の画家たちの紹介に努めている。

Cultural Anthropology

小田 博志

文化人類学

北海道大学大学院文学研究院文化多様性論分野教授。これまで人類学の立場から平和と脱植民地化についてドイツなどをフィールドに研究してきた。最近は自然と文化を切れ目なく捉えることができる生命論的な枠組みを探索している。また先住民族の遺骨や文化財の返還・帰還の問題にも関心を抱いている。主著に『エスノグラフィー入門』（春秋社）、『平和の人類学』（関雄二と共編著、法律文化社）などがある。



北海道大学
学芸員リカレント教育
プログラム

ミュージアムに勤務する学芸員を中心に、文化・芸術に携わる専門職員を対象としたリカレント教育を提供するプログラムです。2018年度より、文化庁「大学における文化芸術推進事業」としてはじまりました。初年度にあたる2018年度には、のべ16人の講師を招聘しての「講義」、各自の調査や企画を進めるための「実習」のほか、一般公開された「シンポジウム」や「特論」を開催。最終年度となる2020年度に実際の企画展とその関連事業を実施・運営することを念頭に、地域文化の拡充を目指して活動を続けています。



この講座では、「文化人類学」、「芸術学」、「博物館学」という性格が異なる3つの学問分野が、「文化多様性」と「フィールドワーク」という共通項で教育・研究を行います。人類の文化の多様性と共通性を研究する「文化人類学」。古今東西の美術、音楽、文芸、演劇などの多様な芸術を対象に研究する「芸術学」。そして、これらの成果を、展示を含めた事業を通して、多様なミュージアムでどのように展開するかを研究する「博物館学」。これらの研究を、机上で文献をひもとくだけでなく、実際に現場で考えるフィールドワークを通して進めていきます。

北海道大学文學院 文化多様性論講座